

1921(大正 10)年～2004(平成 16)年

1. 経歴・狭山市とのかかわり

入間郡水富村笹井(現・狭山市水富)に8人兄弟の末っ子として生まれる。母を2歳で亡くし20歳年上の姉に育てられる。水富尋常小学校(現・水富小)を経て川越中学校(現・県立川越高校)に入学し、音楽を志す。22歳で出征するが、傷痍軍人となって戻る。1945(昭20)年5月の笹井空襲を免れ、飯能町(現・飯能市)に疎開。戦後、日本ポリドール蓄音機に入り楽団を組んで全国を回る。31歳の時、12歳年下のヤスと結婚し2児をもうけるが生活は苦しく、楽団を辞め飯能市のヤマス工機に就職し定年まで勤める。その間、土日は歌やピアノを教え、定年後はすべて音楽に切り替えた。



2. 主な業績

① 作曲家・元日本歌謡芸術協会理事

歌謡曲・新民謡・校歌・社歌・CMソング等、約2000曲を作曲・編曲する。今から45年前に作曲した水富小の校歌を初めとして、広瀬小・狭山台北小(閉校)・入間野小・笹井小・中央中の校歌を作曲する。さらに、水富小・飯能第二小の行進曲も作る。狭山市の依頼を受け、公募で選ばれた狭山市歌を作曲する。水富音頭や狭山小唄等の民謡を手掛け、「埼玉彩の国踊り」・「入間川河童踊り」・「吾野杣歌」は、三越劇場で発表されている。中でも得意とした歌謡曲では「奥武蔵ブルース」・「夢慕情」・「雪割草」・「ああ、振武軍」等、多くの曲を残している。

② 歌謡教室主宰・講師

カルチャースクールや各公民館で歌謡指導を行い、多くの門下生を育てた。狭山のカルチャースクール歌謡教室の講師を務め、歌謡教室を主宰した。また、各市町村の依頼で公民館20か所の音楽講座で歌謡指導を担当する。講座終了後もサークルや愛好会に残り、15団体から指導を依頼される。当初からカラオケは使用せず、発声から歌謡指導までピアノやキーボードなど生音で演奏するスタイルは変わらなかった。1994(平成6)年から10年間、市民会館で「関口重夫カーニバル」を続けた。そして、最後は車椅子でステージに登場し、生バンドの演奏で「狭山市歌」を指揮した。

3. 特筆

軍隊での写真の添え書きに「意思と感情を抹殺され銃を擔って“お国のため”の以外何も知らされず、泣きに泣いた軍隊生活。関口二等兵の胸を去来するものは、ふるさとと肉親と音楽、ただそれだけだった」と記している。家庭ではいつも朗らかで優しく、ユーモアたっぷりの人だった。そして、母親代わりで育ててくれた姉の最期を看取るようにとの言葉を残した。〈取材協力〉 関口ヤス夫人